

1. 題材名 継承したいわたしたちのまち

2. 単元目標

- ・現在まで受け継がれ保存されていることは当たり前ではないことを理解し、行動の変容によって社会をよりよく変えることができるということを理解する。 (知識・技能)
- ・身近にある、人によって大切にされてきたものを見つけ、そのよさを見出し今後の自分たちができることについて考え、伝えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・自分たちの地域に興味をもち、積極的にその良さを見つけ多様な方法で伝えるとともに、地域の一員として自ら受け継いでいこうとする態度をもつ。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 題材観

本単元では、JR 奈良駅旧駅舎を題材として取り上げる。

JR 奈良駅旧駅舎は、昭和9年に建てられ長く古都奈良の玄関口として親しまれてきた。線路の高架化に伴い取り壊されることが決定したが、地域住民や駅を利用している人々より保存の声が高まり、平成16年に主屋部分のみ移動し保存されることとなった。保存活動について、『良いものは残していかないといけない』という考えから、岩崎弘さんたちにより「JR 奈良駅舎を生かす会」がつけられた。駅舎を保存するため、利用者へのアンケートや署名運動などを行い、県知事や市長、JR 西日本社長などに働きかけ続け、その結果思いが伝わり保存されることとなった。現在では近代化産業遺産にも指定され、奈良市総合観光案内所として再利用され様々な人に親しまれている。

この題材について学ぶ中で、人々の思いと行動によって変化を起こすことができたことを学び、大切だと思ふものを継承できること、行動することで社会を変えられることに気付くことができる。また、保存活動に参加し行動した人は一部であっても、直接保存活動に携わったわけではなくとも応援や署名などでかかわった人も大勢おり、駅舎に関心があった人がたくさんいたからこそ保存活動を続けることができたという面もあった。関心をもっていただけからこそ取り壊しに反対したい考えることに繋がったことから、関心をもっておくことの重要性にも気付くことができる。

そして、JR 奈良駅旧駅舎のように、今まで人々の思いによって保存し受け継がれてきたものや、自分たちが今後も受け継いでいきたいと思ふものを見つけ、それらの良さ背景を知ろうとし、受け継ごうとする視点や姿勢を持たせることが可能であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、第3年生で三条通について学習しており、その歴史や発展の経緯などについて学びまた実際に見学に行った際は観光客や地域住民との関わりについても観察やインタビューを通して気付いていた。

地域住民向けの店や観光客向けの店の配置などから歴史ある三条通の現代の活用については考えるこ

とができただが、その保存についてはあまり学ぶことができていない。そこで今後の社会を担う児童たちが、人々の想いと努力によって保存されたという背景がある JR 奈良駅旧駅舎について学習することは、自分たちのまちをより良くするために行動することで変化を起こすことができるということを知り、そして自分たちが保存していく立場であるという意識を持つことができるという意味があると考えられる。

(3) 指導観

指導にあたっては、まず、学級の児童全体の JR 奈良駅旧駅舎の理解について確認する。児童によって駅の利用頻度や認知度に差があることが考えられる。最初にそれぞれが知っていることについて共有することで、新たに学んだり調べたりすることについて互いに教え合ったり理解しやすくできるようにする。旧駅舎について調べる上で、一度取り壊しが決まったが、市民の有志による反対運動によって保存されることとなったという背景があることをおさえる。

旧駅舎について、2003 年まで駅として使用されたことや取り壊しが決定した後に反対運動により保存されたこと、曳家方法で現在の位置に移動されたことなどを知った後に、実際に旧駅舎を訪れ建物の構造等を観察し、また駅舎を利用していた人や反対運動に携わった人に話を伺う。直接見聞きすることで、現在までの保存・再利用のためには人々の様々な願いがあったことや、実現のための努力や取り組みがあったことを理解させる。特に、なぜ残されたのかということに関心を向けさせたい。ここでは、保存活動は良いものは残していきたいという想いによるものであったということ、保存活動に実際に参加することも重要だが寄付や署名など関心をもつことも大きな意味があるということをおさえたい。このような残した方々の努力や想いについて知り深めることで、児童の今後の行動により結びつけることが可能となると考えられる。

そして、旧駅舎の歴史的背景のように、今まで人々の手や想いによって大切にされてきた身近にあるものを見つけ、そのよさを見出し、今後それらを自分たちが守り受け継いでいくためにどのような取り組みができるかを実際に考える中で、より愛着や親しみを持ったり受け継いでいきたいと考えたりできるようにしたい。

(4) ESD との関連

・本題材で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性・・・身近なところに人の手によって大切にされてきて今でも受け継がれ大切にされているものがたくさんある。

有限性・・・人々の想いで大切にされ受け継がれてきていても、もしかしたら昔に取り壊されてしまっていたかもしれないし、今後もいつ失われてしまうか分からない。

公平性・・・当時の人々が大切に、受け継いだものを次世代に残していかなければならない。

責任性・・・未来に継いでいくのは、私たちの世代の想いや行動が重要である。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力

今でも受け継がれ残っていることは当たり前ではない。

他者と協力する態度

取り壊さず保存することになったのは、残したいと思う人が多く行動したからであった。思いを持ち同じ思いの人と働きかけることで物事は変えることができる。

・本学習を通して育てたい ESD の価値観

世代間の公正

人々の行動によって大切に受け継がれてきたものを次の世代へ引き継がなければならない。

・達成が期待される SDGs

目標 11 住み続けられるまちづくりを

目標 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>① 見学・調査したり資料を調べたりして必要な情報を集め読み取ったことから、歴史的な背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどを理解している。</p> <p>② 現在までの保存のためには人々の様々な願いが込められていることや実現のための努力があったことを理解している。</p>	<p>① 見聞きしたこと通して、現在に至る経過や保存や継承のための取り組みなどについて考え自分なりの考えや意見を持つことができている。</p> <p>② 身近にある、人によって大切にされてきたものを見つけ、そのよさを見出したり今後の自分たちができることについて考え、表現したりしようとしている。</p>	<p>① 見聞きしたことから、人々の想いや努力を積極的に知ろうとしている。</p> <p>② 今まで人々の手や思いによって大切にされてきたものや自分たちが受け継いでいきたいものを積極的に見つけ出し、それらに今後どのように関わろうとするかなどを考えようとしている。</p>

5・単元指導計画（全 14 時間）

主な学習活動	学習への支援	評価
<p>1. JR 奈良駅旧駅舎の現在の写真を見て、児童同士の共通理解度を確認する。</p> <p>2. 旧駅舎についてや、話し合いの中で生じた疑問などについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度取り壊しが決まったが、反対運動によって保存された。 ・曳家方法で移動させられ今に至る。 ・なぜ取り壊しに反対したのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内装外装さまざまな角度の写真を示す。 ・旧駅舎について調べる中で、現在の活用だけでなく歴史的背景にも着目させる。 ・曳家方法について想像では理解することが難しいと考えられるので、動画又は模型を用意し示す。 	<p>知技①</p>

<p>3・4. 実際に旧駅舎を訪れ、建物の構造や内装外装を観察する。</p> <p>5・6. 駅舎を利用していた人や反対運動に携わった人に話を伺う。</p> <p>7・8. 見たことや聞いたことから、なぜ旧駅舎は解体されず、保存・再利用されたのかについて話し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り壊し反対の実現のためにはたくさんの人の想いや行動があったんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に訪れて見たり、保存活動に携わった人に話を聞いたりすることでその背景や思いをより深く理解できるようにする。 ・班で理解したことや考えをまとめ発表させる。 ・話し合いや発表を聞く中で疑問点があれば、更に手紙等で尋ね理解を深めることができるようにする。 	<p>知技② 思判表① 主体的①</p>
<p>9~12. 残していきたいと感じる身近な物を見つけ、その歴史や活用について調べる。それらを守るためにどのような行動ができるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動しないと守れないことが分かった。これはどうしたら守れるかな。 ・見つけたものと考えたことをみんなに知ってもらおう。 <p>13・14. 残していきたいと感じる身近な物を守るためにどうしていくかを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から何気なく見ているものでも、調べてみると長く大切にされていたものが意外とあったよ。 ・身近なところに昔から大切にされているものがたくさんあるんだね。 ・自分たちもこれらを受け継いでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路などで目にしているものについて声をかけ目を向けさせる。 ・同じや似た題材を選択した児童と一緒に任せ、必ず複数人で調査できるようにする。 ・インターネットの情報だけでは不十分な場合は保存している団体などに実際に聞き込みをさせる。 ・良いものを残していくためには何が必要かということを考えつかませる。 ・授業参観でクラスメイトだけでなく保護者の方にも知ってもらい、伝える体験をすると共に伝わった相手からの反応を実感させる。 	<p>思判表② 主体的②</p>

指導：井阪愛子（平群町立平群中学校）